

平成 29 年度「スポーツツーリズム・ムーブメント創出事業
（スポーツ文化ツーリズム創造・発信事業）」

スポーツ文化ツーリズムアワード 2017
選定 5 事例調査 報告書

平成 30 年 3 月

1. 調査の目的

本調査は、「スポーツ文化ツーリズムアワード 2017」（参考）で選定した事例について、事業の目標、経済効果、これから事業を始めようとする団体へのアドバイス等を受賞団体からアンケートにより聞き取り、公表することで、地域資源等の再発見を促し、全国の自治体や NPO 等が「スポーツ文化ツーリズム」を推進することで、全国的な定着を図ることを目的としている。

2. 調査の方法

各団体にヒアリングシートを配布。必要に応じて電話による調査を行った。

(ヒアリングシート)

【事業概要・目標】	質問 1	貴事業の概要、目標などについてお伺いします。
	①	貴事業を計画された背景（地域での課題・問題など）、それに対して、事業立ち上げに至る経緯（構想から事業スタートまでの概略）をご教示ください。
	②	貴事業開催前に設定していた目的・狙い（例：上記地域での課題に対して、インバウンド展開に対して、など）をご教示ください。また、その目的・狙いは、事業を行うことでどれくらい達成できたとお考えですか？
【事業内容の詳細・実績・成果】	③	貴事業の今後の目標（集客、インバウンド展開、など）をご教示ください。 今後事業が目指している目標をできるだけ具体的にお知らせください。（特に、数値目標など定量的な指標を設定されている場合はぜひご紹介ください。）
	質問 2	事業で動員された「参加者」「観戦者」「スタッフ」などの人数がわかれば教えてください。
	質問 3	貴事業を通じて獲得できた経済効果（県民経済計算におけるプラス変動、観光産業の総生産高推移、MICE 開催による経済波及効果測定など）がわかれば教えてください。
	質問 4	貴事業が達成した成果を教えてください。交流人口の増加数、地域への帰属意識の向上、地域活性化への貢献など事業を通じた成果（経済効果以外の）を教えてください。
	質問 5	スポーツ文化ツーリズムの発展のため、あなたの事業が特に自信があり、他よりもがんばっている、と思う点は何ですか？また、他の地域へのアドバイスとして、事業を始めようとしている方やすでに携わっている方へ、アドバイスやご意見があればお願いいたします。
質問 6	政府や関係団体等へのご要望があれば、ぜひお聞かせください。	
質問 7	今回「スポーツ文化ツーリズムアワード」に応募しようと思ったのはなぜですか？理由をお教えてください。	

【参考】「スポーツ文化ツーリズムアワード 2017」

スポーツ庁・文化庁・観光庁では、3庁の政策連携による相乗効果によって、新たに生まれる地域ブランドや日本ブランドを確立・発信し、訪日観光客の増加や、国内観光活性化を図るため、平成 28 年 3 月に包括的連携協定を締結した。

本アワードは、2020 年までに訪日外国人 4,000 万人という目標達成に寄与するような魅力あるコンテンツを生み出す「スポーツ文化ツーリズム」の定着を目指している。

2 年目となる今年は 7 月 25 日から 9 月 15 日にかけて「スポーツ文化ツーリズム」の好事例と今後有望な事例の発掘のため、「マイスター部門」と「チャレンジ部門」の 2 部門に分けて「スポーツ文化ツーリズムアワード 2017」を募集し、5 団体の取組を「マイスター部門 奨励賞」、「チャレンジ部門 入賞」として選定した。

【マイスター部門 奨励賞】

◆おごと温泉を拠点とした世界文化遺産・日本遺産を繋ぐ「おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク」

(びわ湖パノラマウォーク実行委員会)

◆沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検 (株式会社 南都)

【チャレンジ部門 入賞】

◆大阪城トライアスロン 2017/NTT ASTC トライアスロンアジアカップ

(大阪城トライアスロン 2017 大会組織委員会)

◆日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道 (株式会社 ゴルフダイジェスト・オンライン)

◆小豆島一周サイクリング&無人島 BBQ (香川県土庄町)

なお、「マイスター部門」に選んだ 2 つの取組は、まだ改善・創造の余地があり、今後に大きな可能性があると考え、奨励賞とした。

また、「チャレンジ部門」は、今後の可能性について期待が感じられる団体を選定・応援していくという趣旨から 3 団体を選定した。

おごと温泉を拠点とした世界文化遺産・日本遺産を繋ぐ 「おごと温泉・びわ湖パノラマウオーク」

(申請団体) びわ湖パノラマウオーク実行委員会

取組概要

- 観る世界文化遺産（比叡山延暦寺）&日本遺産（「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」）、癒す温泉（最澄によって開湯されたおごと温泉）、味わう食文化（近江牛、近江米、日本酒）をスポーツで繋ぐウォーキングイベント。
- 9月の週末2日間の開催、1日4コース計8コースと、複数コースあり。
- ウォーキング後は各旅館の温泉へ、おごと温泉9軒の旅館の宿泊者増及び周辺の観光施設にぎわい増。
- 参加者数（2017年）：約1,200名



評価ポイント

- 他のマラソンや、ウォーキングイベントとの差別化ができています。
- ターゲット層を幅広く取れる企画である。
- 参加者が体験する、地域ならではの多様なコンテンツ、「するスポーツ」、「観る文化財」、「癒す温泉」、「味わう食文化」が体験できる。それぞれの見せ方を工夫した上で、更にそれら横のつながりをもっと分かりやすくすることで、更なる発展が期待される。



沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検

(申請団体) 株式会社 南都

取組概要

- 国内最大級の鍾乳洞「玉泉洞」の洞くつ探検（ケイビングツアー）で、5感を使った非日常体験で、沖縄ならではの独自性強いコンテンツ。
- 玉泉洞は、沖縄の自然、歴史、文化を伝える観光施設「おきなわワールド」にあり、県の博物館相当施設に指定されている。
- 教育旅行やMICE（チームビルディング）のアクティビティとしても提供可能で、多様性もある。
- 参加者数（2017年7月中旬～9月末日）：約3,000名



評価ポイント

- アドベンチャーツーリズムは、世界でも旅行トレンドであり、インバウンドが期待できる企画である。
- 「スポーツ面」、「文化面」をもっとしっかり創造し打ち出すことで、洞くつがある他地域との差別化や、新規性を磨いて、インバウンドへの発信手法を工夫することで更なる発展が期待される。



大阪城トライアスロン2017/NTT ASTC トライアスロンアジアカップ

(申請団体) 大阪城トライアスロン2017大会組織委員会

取組概要

- 大阪のシンボル「大阪城」のもとで、東外堀を泳ぎ（スイム）、大阪城公園から大阪ビジネスパークまでを自転車で駆け抜け（バイク）公園内を走る（ラン）と、画期的なトライアスロン大会であり、アジアカップとして海外のエリート選手も多数参加する国際競技大会。
- スポーツと文化・歴史が融合した新たな取組を世界に発信し、スポーツの振興、大阪の都市魅力の向上につながっている。
- 参加者数(2017年)：約500名のボランティアスタッフが大会を支え、約65,000人の大歓声の中、国内外の選手852名が競い合った。



評価ポイント

- 今年初めての取組であったが、ユニークベニューでもある大阪城での開催で、他の大会との差別化が出来ている。
- 世界への発信によるインバウンド誘致等による経済効果も得られており、次回以降も安定的開催を期待される。



(C) Satoshi TAKASAKI/JTU

日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道

(申請団体) 株式会社 ゴルフダイジェスト・オンライン

取組概要

- 冬季は雪解けまでクローズするしかなかった北海道ゴルフ場を利用した新たな取組で、2016年北海道美唄市のゴルフ場で国内初開催。
- 美唄市、地元企業、地域住民の協力のもと会場準備、雪上アクティビティ実施、地元野菜を使った料理などゴルフ以外にも参加者に楽しんでいただきつつ、地域活性化にも繋がるよう取組を行っている。
- 2018年実施時には、アトラクションの追加を行うなど、旅行会社経由でのツアーパッケージを作成・販売を計画し、道内外問わず交流人口（来場者）の増加を見込む。



評価ポイント

- アジア圏内でウィンタースポーツが出来る国は少ない為、今後発展の可能性がある。
- 今後は、地域食との連携を図る事に加え、「文化面」での日本らしさ、地域らしさを見出すことで、更なる発展が期待される。



(C) 2000-2017 Golf Digest Online Inc. All rights reserved.

小豆島一周サイクリング&無人島BBQ

(申請団体) 香川県土庄町

取組概要

- 土庄町の地域おこし協力隊が企画した新しいスタイルのサイクリングイベント。小豆島を自転車で一周する「豆（まめ）イチ」をしながら、島の自然や瀬戸内の景観を楽しんでもらい、地元の食材をふんだんに振る舞うなど、「サイクリングの島」としての定着を目指す。
- 参加者数（2017年）：17名。2017年度から香川県が主体となってサイクリング誘客促進に取組み、モデルルートとして、「小豆島一周ルート」が選定され、このイベントを今後も継続して開催することで、新たな観光資源を生み出し、誘客促進、地場産業の発展につなげていく。



評価ポイント

- 小豆島は、近年、海外からの観光客も急速に増え、話題になっており、今後、食文化以外でも魅力を磨きながら、インスタグラム等のSNSを利用した発信に力を注ぐことで、インバウンドをより多く呼び込める可能性を大いに秘めているということで期待される。



3. 調査結果

質問 1：貴事業の概要、目標などについてお伺いします。

① 貴事業を計画された背景、それに対して、事業立ち上げに至る経緯をご教示ください。

<マイスター部門>

◆おごと温泉を拠点とした世界文化遺産・日本遺産を繋ぐ「おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク」

(びわ湖パノラマウォーク実行委員会)

- ・ びわ湖パノラマウォーク実行委員会の構成団体は、おごと温泉観光協会、滋賀県ウォーキング協会、びわ湖放送、旅行代理店、びわこ成蹊スポーツ大学、大津市、草津市、守山市。
- ・ 本事業は「観光振興」、「スポーツ振興」、「健康づくり」、「環境美化」の4つのキーワードを結びつけている。
- ・ 滋賀県ウォーキング協会と連携し、多くの市民・県民参加も募り、まち興しや健康増進、美化活動に繋がる施策にも取り組んだ上で、全国から参加頂けるウォーキングイベントに繋げていくことを目標に立ち上げた。



◆沖繩に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検 (株式会社 南都)

- ・ 全長約 5,000m、国内最大級と言われる、天然記念物の鍾乳洞「玉泉洞（ぎょくせんどう）」を 1972 年に公開、地域に根差した観光施設を 46 年間運営。
- ・ 約 30 万年の年月をかけて創られた玉泉洞の「ありのままの姿」を体感して欲しい、また沖縄の豊かな自然や生き物に触れ、五感で楽しめるプログラムを提供したいとの想いから、未公開エリアでのガイドツアーを開発。（30 年前のスタート当初は、地元の子ども会などを対象に、学習の一環として開催。）



©おきなわワールド

<チャレンジ部門>

◆大阪城トライアスロン 2017/NTT ASTC トライアスロンアジアカップ

(大阪城トライアスロン 2017 大会組織委員会)

- ・ 2008年大阪五輪会場誘致視察のため2000年に当時の国際トライアスロン連合レスマクドナルド会長が来阪した際、「大阪城は歴史や文化性があり、濠で泳いだらユニークだ。」と大阪城を会場に提案。
- ・ プレ大会の位置づけで大阪城の傍を流れる大川で泳ぎ、大阪城公園内を走るアクアスロン大会を2015年と2016年に開催し、2016年に大阪城の東外濠の水質検査したところ、遊泳可能な結果が出たことで、濠で泳ぐことが実現された。
- ・ 実行組織として、大阪市、関西大阪21世紀協会、大阪観光局、大阪青年会議所、大阪城パークマネジメント(株)、(公社)日本トライアスロン連合、(一社)大阪府トライアスロン協会で構成する組織を立ち上げ、文化庁をはじめ警察など関係機関との協議を重ね、今回のイノベーションの実現に至った。



(C)Satoshi TAKASAKI/JTU

◆日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道 (株式会社 ゴルフダイジェスト・オンライン)

- ・ 冬季、半年間営業停止するゴルフ場で雪を利用した「ウィンターゴルフ」を開催。
- ・ 地元ゴルファーの冬季スポーツ提供だけでなく、新しい観光商材として国内外から観光客の誘致、地元企業との連携・住民の雇用など地域の活性化、さらに北海道以外での降雪エリアゴルフ場でも展開でき、ゴルフ業界全体活性化のきっかけとなることを期待。



(C)2000-2017 Golf Digest Online Inc. All rights reserved.

◆小豆島一周サイクリング&無人島 BBQ (香川県土庄町)

- ・ 当町の地域おこし協力隊（Uターン）が、自身の趣味であるサイクリングと幼少時に家族で無人島へ行き BBQ をしていた経験から、オリジナリティ溢れるイベントを企画・プロデュース。
- ・ 島の魅力を五感で体感し、心身ともに小豆島を味わってもらうことで、小豆島でのサイクリストの掘り起こしや、認知度の向上につなげ、「サイクリング・食文化が豊富な島」としての定着を図り、観光誘致及び交流促進につなげたい。



今回選定された 5 事例はそれぞれ、その地域のスポーツ・文化の特性を活かしており、特徴的なコンテンツとなっている。

マイスター部門では、歴史的文化遺産や自然遺産をスポーツと掛け合わせてきたことで、参加者に魅力的な事業を継続的に提供してきた。今後も、国内外の観光客増加に寄与していくことを期待したい。

チャレンジ部門のゴルフダイジェスト・オンライン「日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道」は、冬季の雪による営業停止というハンデを、反対に雪を利用してゴルフをするという、国内ではこれまでになかった事業を展開した。

弱みを、これまでと違った視点から見ることで強みに変え、新しい事業に繋がっている。

質問 1：貴事業の概要、目標などについてお伺いします。

- ②貴事業開催前に設定していた目的・狙いをご教示ください。また、その目的・狙いは、事業を行うことでどれくらい達成できたとお考えですか。

<マイスター部門>

◆おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク

- ・ 大津市の地域資源である歴史・文化・自然を生かし、市民参加型の全国的なウォーキングイベント「おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク」を開催し、大津市民だけでなく滋賀県内及び日本各地から参加する大規模なウォーキングイベントとなった。
- ・ おごと温泉のある大津市及び滋賀県は、国内外からの観光誘客に力を注いでおり、平成 27 年には市内で 1,240 万人と過去最高の入込み客数となった。中でも外国人観光客の増加が著しく、平成 27 年には、19 万人の外国人観光入込み客数となり、平成 26 年よりも 8 万人増加した。
- ・ 今後は、官民が連携しながら国内外の観光誘客に力を注ぎ、イベント参加だけでなく、開催地の観光としての側面も楽しめるよう、主催である「びわ湖パノラマウォーク実行委員会」の構成団体がそれぞれの長所を生かし、観光客の受入を行う。

◆沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検

- ・ 本年度（2017 年）目標が 2,800 名に対し実績が約 3,000 名と 107%UP、インバウンドに関しても前年比 175%と大きく増加。
- ・ 要因として SNS での情報発信・ホームページでの英語ページ作成など情報発信強化を図り、受入時の案内に簡単な翻訳パネルなど外国人向けの取組が結果に繋がったと考える。

<チャレンジ部門>

◆大阪城トライアスロン 2017/NTT ASTC トライアスロンアジアカップ

- ・ 定員割れすることなく開会。（結果：定員をはるかに超える参加申し込みがあった）
- ・ 海外参加選手を以前の舞洲大会よりも増やしたい。（結果：インバウンド展開が弱かった。海外参加選手 61 名、昨年の舞洲大会とほぼ同数。）
- ・ 以前の大会からの観客倍増の目標 30,000 人。（結果：65,000 人）

◆日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道

- ・ ゴルフを主語に（主に地方）地域の活性化。⇒美唄市協力のもと雇用創生、道外からの観光客誘致の成功。
- ・ 新しいスタイルで、新しい楽しみ方のゴルフを提案。⇒認知度を上げて、簡単に参加できるスポーツへ成長させる必要がある。
- ・ 国内外インバウンド客誘致。⇒今季よりマレーシアを中心としたインバウンド観光客の受入を開始し、来季以降もエリア、受入人数を増やし提案予定。

◆小豆島一周サイクリング&無人島 BBQ

- ・ 近年、ロードバイクを中心としたサイクリングを楽しむ人が増えているという背景と、小豆島は地形的に山地が多く、人々を魅了する美しい自然が数多くあり、サイクリストにとって人気スポットになる可能性が高く（特に中・上級者向け）、交流人口の増加につなげたい。
- ・ イベント等を通して、認知度の向上を図り、小豆島でサイクリングしたい、と思うサイクリストの掘り起しにつなげ、「サイクリングの島」として定着していくことが目標。（イベント後に多くのメディアに取り上げられたことによって、認知度向上等につながったと感じている。）

質問 1：貴事業の概要、目標などについてお伺いします。

- ③ 貴事業の今後の目標をご教示ください。今後事業が目指している目標をできるだけ具体的にお知らせください。特に、数値目標など定量的な指標を設定されている場合は、ぜひご紹介ください。

<マイスター部門>

◆おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク

- ・ 開催 2 日間のウォーキングイベントには約 3,000 名の参加者を目標として、この地域への来訪者の増加と、市内の他の観光地への周遊を図りたい。
- ・ びわ湖周辺の認知度の向上を図り、年間を通じて、大津市・草津市・守山市及びおごと温泉の宿泊客の増加と世界文化遺産、日本遺産の観光を楽しむ旅行者の増加に向けての取組を関係団体と連携する。

◆沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検

- ・ 沖縄県観光振興基本計画を踏まえ、2021 年度までの目標が国内客 800 万人、外国人客 400 万人と掲げられ、ターゲット・マーケットに最適なプロモーションを実施する。
- ・ 満足度の高い「安心・安全・快適な観光地・アクティビティ」提供を図り、人気コンテンツへの成長を目指し地域の観光に寄与する。

<チャレンジ部門>

◆大阪城トライアスロン 2017/NTT ASTC トライアスロンアジアカップ

- ・ 2018 年、2019 年アジアカップとして継続開催し、大会運営の確立と改善でスケールアップ。
<参加者 1,200 名（国内 1,100 名 海外 100 名）>
- ・ 2020 年ジュニア、パラトライアスロン、ミックスリレー部門を併設し、2 日間開催で大会規模をスケールアップし、ワールドカップとして開催。<参加者目標 2,000 名（国内 1,700 名 海外 300 名）>

◆日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道

- ・ 企画実施場所である美唄市での交流人口を、2019 年には国内から 3,200 名、国外から 4,800 名を目標とする。
- ・ ゴルフ商材（コース設定やクラブレンタルなど）の充実と、ゴルフ以外のスノーアトラクションの設置。

◆小豆島一周サイクリング&無人島 BBQ

- ・ 行政や民間などが連携しサイクリスト受入環境整備や詳細なサイクリングルート設定に向けた作業に取組、イベントを今後も継続して開催することで、新たな観光資源を生み出し、誘客促進、地場産業の発展につなげたい。
- ・ 自然・文化・現代アートに、サイクリングというスポーツを結びつけることで、インバウンド誘致はもちろん、国内観光にもつなげ、さらなる観光の活性化を図りたい。

今回選ばれたすべての団体が、継続的なイベントの開催とともに、参加者増加を今後の目標としている。事業を継続するには地域の自治体、関係団体と連携し、より良い受け入れ環境（人材含む）を作っていかなければならない。

質問 2 : 事業で動員された「参加者」「観戦者」「スタッフ」などの人数が、わかれば教えてください。

企画名 (申請団体)	参加者/開催日数	観戦者	スタッフ
おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク	約 1,000 名/2 日間		
沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検	約 3,000 名/78 日間		4 名～6 名 (1 日平均)
大阪トリアスロン 2017/NTT ASTC トリアスロンアジアカップ	出場者数 (下記抽選当選者) : 852 名 (国内 : 794 名、海外 : 58 名) /1 日のみ ※エントリー数 : 1,714 名 (国内 : 1,650 名、海外 : 64 名)	65,000 名	500 名
日本初! 雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道	2017 年 129 名 2018 年 433 名	2017 年 ・無料スノーパーク利用他、 観覧者等 約 2,300 名 2018 年 ・スノーランド 992 名	アルバイト 50 名 イベントスタッフ 20 名
小豆島一周サイクリング & 無人島 BBQ	17 名/1 日 (うち島外者 15 名)		約 40 名

質問 3 : 貴事業を通じて獲得できた経済効果 (県民経済計算におけるプラス変動、観光産業の総生産高推移、MICE 開催による経済波及効果測定など) が分かれば教えてください。

◆おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク

- ・ これまでの参加者調査では、居住地が滋賀県 40%、その他 60%となり、また近畿二府四県では 66%となったことから、近畿圏以外が 34%と観光事業的要素も高い。
- ・ するスポーツ「ウォーキング」ではあるが、本イベントは全国からの参加者が多く、宿泊を伴うイベントであることから、観光振興としての可能性は高いと考える。(宿泊者の平均総消費額は約 34,000 円に達しており地域経済への波及効果も大いに期待できる。)

◆大阪城トリアスロン 2017/NTT ASTC トリアスロンアジアカップ

- ・ 海外選手をはじめ国内外からの選手、家族やコーチ、観客による宿泊費、飲食費、交通費などの消費
- ・ 大会運営費、会場設営費、資材レンタル費などの大会を開催することによる消費。

◆日本初! 雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道

- ・ 冬季シーズン : 参加者 2,500 名×エントリー費 2,000 円 = 5,000,000 円。

質問 4 : 貴事業が達成した成果を教えてください。交流人口の増加数、地域への帰属意識の向上、地域活性化への貢献など事業を通じた成果を教えてください。

<マイスター部門>

◆おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク

- ・ 本事業は、産官民学の四者協働事業体制であり、観光・スポーツ・健康にまたがる連携事業であることから、「観光 + 健康 + スポーツ（教育） + 環境（美化活動）」によって進化させること。
- ・ 市民参加型全国イベント「おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク」を歯車の中心に専門性を有する組織体が協働し、連動する仕組みを経験できたことは、大変意義があると考えます。

◆沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検

- ・ 洞くつ探検を通して「地球の偉大さ・自然の素晴らしさ」を実感して頂く事で、自然保護の観点に寄与。
- ・ 県外だけでなく、県内の参加者も多く、自由研究の題材対象になる事から、参加者の好奇心・探求心をくすぐり、地域の魅力を再確認すると共に、地域への帰属意識の向上に寄与。

<チャレンジ部門>

◆ 大阪城トライアスロン 2017/NTT ASTC トライアスロンアジアカップ

- ・ お濠で泳ぐことが注目され、テレビや新聞、雑誌、WEB ニュースなど、多くのメディアで取り上げられ、大阪にとって高いパブリシティの成果を得ることができた。
- ・ 大阪市民・府民のボランティアでの参加や大阪城付近の各地域、団体の協力、連携により、地域間・住民間の一体感を高め、地域活性化につながった。

◆日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道

- ・ 冬季期間中のゴルフ体験誘致。ゴルフ以外の観光客誘致。
- ・ 地元住民、企業、メディアの交流。

◆小豆島一周サイクリング&無人島 BBQ

- ・ 「サイクリングの島」としての認知度向上はもちろん、来島するサイクリストなど交流人口の増加。
- ・ 島の魅力の再認識。

すべての団体から、「地元の一体感の向上」や「地域活性化になった」との回答をいただいた。イベントを成功させるには地元の自治体や関係団体、住民を巻き込み、協力関係を築いていくことが重要になると考えられる。



(雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道)



(小豆島一周サイクリング&無人島 BBQ)

(C) 2000-2017 Golf Digest Online Inc. All rights reserved.

質問 5 : スポーツ文化ツーリズムの発展のため、あなたの事業が特に自信があり、他よりも頑張っている、と思う点では何ですか？また他の地域へのアドバイスとして、事業を始めようとしている方やすでに携わっている方へアドバイスやご意見があればお願いいたします。

<マイスター部門>

◆おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク

- ・ 大会開催にあたり、専門性を有する組織体が協働し、定期的に行行委員会を開催することにより、各参加委員の間で、共有事項の確認や進捗確認をはかるための会議を実施。

◆沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検

- ・ 当施設では参加人数を制限し、ガイド制を取り入れる事で、スポーツ面だけでなく、地域独自の自然や文化の価値を発信。
- ・ 人数を制限する事で環境への負担を軽減させ、価値を伝える事で、結果的に自然保護の啓発へと繋がり、事業として継続する事で雇用を創出。(自然との調和、保護の観点が非常に重要である。)

<チャレンジ部門>

◆大阪城トライアスロン 2017/NTT ASTC トライアスロンアジアカップ

- ・ 文化財大阪城の新たな活用を創造し、さらなる魅力の向上を図り、観光資源としての付加価値を付与したと考える。
- ・ 「新しい切り口」「新たな結合」に取り組んだことは大変だったが、新しく、やり甲斐があった。

◆日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道

- ・ 「ゴルフ」に特化した、専門企業ならではの取組を実施。
- ・ ウィンターゴルフをはじめ、日本各地の地場に根差したオリジナル企画の提案実施、それに付随する地元企業との協業。

◆小豆島一周サイクリング&無人島 BBQ

- ・ スポーツ（小豆島を自転車一周「豆イチ」）と、食文化（小豆島や豊島の豊かな食材）の融合。
- ・ イベントの独自性（島を五感で感じてもらい、心身ともに小豆島の魅力を味わってもらう。)

今回選定された団体は、地域の特性を再確認し、イベントの独自性を見出している。「沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検」の主催者からは、自然を活かしたアクティビティであるため、安全面と環境保全には特に配慮しなければならない、との回答を頂いており、同じ様に自然を利用したイベントを行う場合の参考となる。



(大阪城トライアスロン 2017)
(C)Satoshi TAKASAKI/JTU



(沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検)

<マイスター部門>

◆沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検

- ・ 未だスポーツとして認知されていない取組・企画の発信や評価の場として、是非、本アワードの継続実施をお願いしたい。(ニュージーランドを訪れる中国人の多くが、ケイビングを旅の目的としているとの話もあり、日本でもケイビングがスポーツとして広く認知される事で、外国人観光客の誘客にも効果を発揮できると考えている。)
- ・ 政府や関係団体の皆様に実際に体験して頂きたい。多くの方にケイビングを体験して頂きたいとの考えから、敷居をなるべく低くする取組として、① 6歳から参加受入 ②必要な物のレンタルを行っている。

<チャレンジ部門>

◆大阪城トライアスロン 2017/NTT ASTC トライアスロンアジアカップ

- ・ イベントの参加者や観戦者等へのサービス向上のための Wi-Fi 等環境整備に向けて、新たな補助金や助成金の創設。

◆日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道

- ・ より全国へ広げていくための活動費として、アワードへの応募・受賞団体への補助金制度を設ける。
- ・ イベント未体験者を対象にした、ツアー企画の実施。(より多くの方に体験してもらい、感想の共有や企画への要望をもらう。)

◆小豆島一周サイクリング&無人島 BBQ

- ・ スポーツ文化ツーリズムの一層の推進。

回答をいただいた中には補助金・助成金の直接的な支援と、企画を発信する場の提供など、間接的な支援の要望があった。今年度3庁では、フォローアップミーティングや、「報告書」のホームページ掲載等により共有を図ったが、今後とも「スポーツ文化ツーリズム」の認知度向上など、さらに取組を推進していきたい。

<マイスター部門>

◆おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク

- ・ びわ湖パノラマウォークの特徴でもある、ウォーキングマラソンコースや世界遺産コース、日本遺産コース、琵琶湖の湖上遊覧コースを含めた当事業を、さらに多くの方に知っていただくため

◆沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検

- ① スポーツとして、ケイビングの認知度アップ
- ② 地域資源の PR
- ③ 職員のモチベーションアップ

<チャレンジ部門>

◆大阪城トライアスロン 2017/NTT ASTC トライアスロンアジアカップ

- ・ スポーツと歴史文化を結びつけた大阪城トライアスロン大会が認定されることにより、ブランド化し、また新たな観光資源として、トライアスロン及び大阪の魅力向上を図れると考えた。

◆日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道

- ・ ゴルフにおいても「地域創生」がひとつのテーマであり、土地独自の文化・風習を生かした企画を模索しているなかでウィンターゴルフの実施は、少しずつだが着実に効果が生まれつつある。
- ・ 北海道以外でも、冬季期間の運営に課題を抱える地域でも実施できるように調整を進めており、国内外のゴルファーはもちろん、ゴルフ場関係者の方々にも知ってもらおうきっかけになって欲しい。

◆小豆島一周サイクリング&無人島 BBQ

- ・ スポーツイベントと文化芸術資源を結びつけて、新たに生まれる地域ブランドや日本ブランドを確立・発信し、訪日観光客の増加や、国内観光の活性化を図り、日本及び地域経済の活性化を目指すという「スポーツ文化ツーリズム」の考えが、まさに本イベントの狙い・目的に合致していたため。

選ばれた 5 団体から、行っている事業を様々な人や団体に認知してもらうために本アワードに応募した、との回答をいただいた。本アワードは「スポーツ」と「文化芸術」を融合させて観光地域の魅力を向上させるようなコンテンツを推奨しているため、今後もこのような事例が多く生まれることを期待したい。

調査の結果、以下の事が見えてきた。

今回選定された団体・自治体の取組から、今後、取組を始める、企画する団体・自治体のモデルケースとして、参考にして頂きたいポイントをご紹介します。

- ① **事業を立ち上げる際の地域との連携の重要性**である。スポーツ文化ツーリズムのコンテンツとなる事業は、自治体や観光協会など公共セクター、そして地元の組織との関わりは必要不可欠である。地域住民にも事業に対して関心を持ってもらい、協力を得ることで、イベントを開催するにあたってボランティアの動員や協力関係を築きやすくなる。そうすることにより、地域の住民も意識が高まっていき、事業がより組み立てやすくなると考えられる。
- ② **地域資源の新たな活用による付加価値の向上**である。今回選定された5事例は、「スポーツ」と「文化」という視点から、地域にある資源を、新たに生み出したことによって、その地域特有のコンテンツを作り出すことが出来たと考える。各地域によって存在する資源は異なるが、地域の資源を再確認・再認識し、魅力的なコンテンツ・イベントを作り出すことが重要である。そして、訪れた人に「もう一度来たい」と感じてもらい、今後の集客増加に繋げることができるようにすることが、本事業の最終的な目標である。

最後に、ヒアリングシートでは各団体に政府・関係団体等への要望を聞いたが、補助金、助成金の直接的な支援だけでなく、まだ認知されていない取組・企画の発信や評価の場の提供を、政府や関係団体に求める、間接的な支援が多く挙がった。団体・自治体が今後も事業を継続させていくには、「**スポーツ文化ツーリズム**」の**企画の実施・発信の場の提供、国内外へのPR・発信**が必要となる。「沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検」では、目玉となる洞くつ探検はケビングといわれており、ヨーロッパで特に人気のあるスポーツではあるが、海外だけでなく、国内でも、まだあまり知られてはいない。これらの取組をまとめ、日本の「スポーツ文化ツーリズム」として、効率的に情報を発信することができれば、より効果的な支援にもつながる。加えて、今回の受賞を機に、自分たちの取組をさらに発展させたい、という思いを持つ受賞団体も多く、「スポーツ文化ツーリズムアワード」情報を、3庁と関連団体や受賞団体が連携し、継続的に広く発信していくことで、今後のアワードの認知拡大・価値向上にも繋がっていくことを期待したい。